

次回展のご案内



トルコ共和国建国100周年記念

山田寅次郎展

茶人、トルコと日本をつなぐ

2023年8月11日[金・祝] – 11月19日[日]

休館日：月曜日 [9/18、10/9 は開館] 開館時間：11 時より 19 時まで

入館料：大人 1,400 円 / 大人ペア 2,400 円 / 学生(25 歳以下)・高校生・70 歳以上の方・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、および介助者(1 名様まで) 1,200 円 / 小・中学生 700 円

※入館料のうち、お一人 200 円を義捐金としてトルコ地震の被害地へ寄付させていただきます。

主催：山田寅次郎展実行委員会(一般社団法人山田家・駐日トルコ共和国大使館・ワタリウム美術館)

実行委員長：隈研吾(建築家) 会場デザイン：山田紗子(建築家) アニメーション映像：梶原洋平

企画/会場：ワタリウム美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-7-6

Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714

official@watarium.co.jp <http://www.watarium.co.jp>

関連企画

ワタリウム美術館が、
トルコに变身。
〈食〉〈音楽〉〈トルココーヒー〉
「オスマン倶楽部」
「トルコツアー」など
関連企画を多数予定。

WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art

展覧会概要

明治時代の青年たちは、更なる魅力ある日本を求めて、
世界へ出て見聞を広めた。

1890年、日本に到着したオスマン帝国軍艦・エルトゥール号が、帰路、台風で乗組員のほとんどが命を落とした事故に心を痛めた青年、山田寅次郎は義捐金活動を開始、集めた義捐金を持参しオスマン帝国へと向かった。

わずか24歳の目に映ったのはオスマン文化の荘厳さと人々の暖かさだった。

この展覧会は、山田寅次郎という明治の人物を介し、日本とトルコという異なる歴史を持つ2つの国が交流する様子を伝えながら、相手の文化を深く尊敬することの大切さを感じる機会としたい。



山田寅次郎

やまだとらじろう

(1866-1957)

1866年（慶應2年）、山田寅次郎は上州沼田藩土岐家・江戸詰家老職を務める武家に誕生。15歳、茶道宗徧流家元の養子になる。東京薬学校（現・東京薬科大学）卒業後、語学を学ぶ。幸田露伴、尾崎紅葉、福地櫻痴など文化人と交流。日本初のタウンページ「東京百事便」を発行。

トルコ軍艦エルトゥール号海難事故の義捐金を届けるためトルコへ。オスマン帝国アブデュルハミト2世に謁見。トルコに約10年滞在。トプカプ宮殿内東洋美術の分類、日土貿易を行うかたわら伊東忠太、徳富蘇峰などトルコ訪問する日本人のサポートをした。日露戦時、日本政府の依頼でボスポラス海峡近くから「バルチック艦隊」の動静を見張る。日本に帰国後、製紙会社設立し事業家として活躍後、57歳、茶道宗徧流八世家元襲名。1957年（昭和32年）91歳没。

主な展示予定作品

1章

とるこがかん

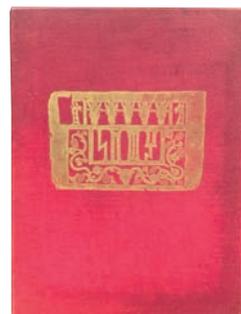
『土耳其畫觀』から知る オスマン文化

エルトゥールル号事故と義捐金活動を映像で知るコーナー そしてオスマン帝国へ

山田寅次郎が書いたオスマン帝国の文化・生活様式を伝える「土耳其畫觀」に描かれた絵をデジタル映像(アニメーション)を使用し表現。

寅次郎がはじめてコンスタンチノーブル(イスタンブル)を見たときの感動を伝え、来場者も一緒にその当時にタイムスリップした感覚になる空間となる。

当時の写真や資料も併せて展示する。



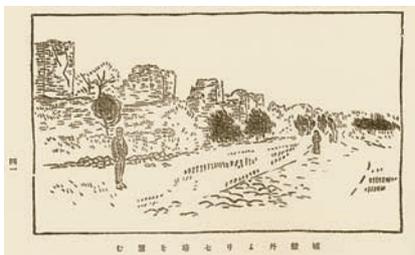
『土耳其畫觀』表紙

1911年(明治44年)出版
山田寅次郎がオスマン帝国滞在中に見聞した当時の生活文化を絵と文章で解説。現在においても貴重な資料としてトルコで研究されている。2021年トルコ語版が出版された。

デジタル映像(アニメーション)を使用し表現。

『土耳其畫觀』より

1.



2.



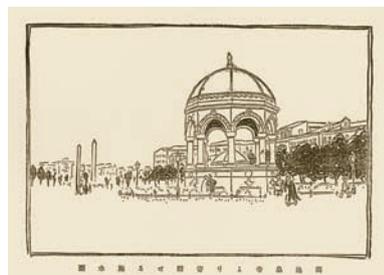
3.



4.



5.



6.



『土耳其畫觀』より

1. 城壁外より七塔を望む
2. 牛馬用施し水
3. 演劇俳優
4. 田舎の街路
5. ドイツ皇帝より寄贈せる施水場
この水を飲むとまたイスタンブルに来られるという言い伝えがある。
6. 大橋上の群衆

「太陽の光は無数のガラス窓に反射し、きらきらと七色の光彩を放つその美しく壮麗な光景は、天上の樂園を連想させるばかりである」山田寅次郎『土耳其畫觀』より

日本文化に興味があった皇帝（スルタン） アブデュルハミト2世との出会いから、寅次郎の人生が大きく変わる。



第34代スルタン
アブデュルハミト2世
(1842-1918)

第32代スルタン・叔父アブデュルアズィズと1867年パリ万博に行き、日本館で見た日本美術に魅了される。
図版：米国議会図書館 ジョージ・グランサムペインコレクションより

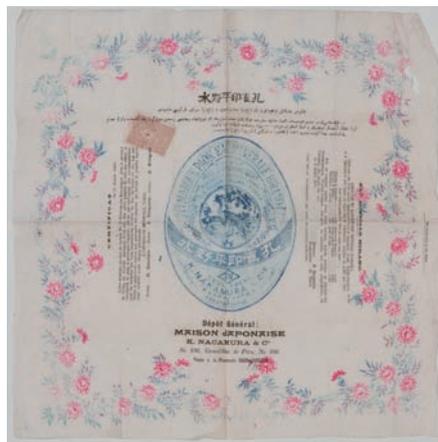
スルタンと寅次郎の関係

オスマン帝国皇帝のアートディレクターとして

スルタンは、青年・寅次郎に日本の美術品の選定を命じ、日本の陶磁器、漆器、絹製品、成鳥類や柿の木などスルタンの希望の品を日本から輸入した。その品々は、現在もドルマバフチェ宮殿に保管展示されている。



オスマン細密画(ミニアチュール)



日本のミネラルウォーターチラシ

山田寅次郎がイスタンブルに開いた日本製品を扱う「中村商店」では、日本のミネラルウォーターまで輸入していた。平野水と記されているが、これは兵庫県平野の炭酸水で、三ツ矢サイダーもこの水を使用している。



スルタン・アブデュルハミト2世に献上した甲冑

寅次郎の家の家宝、本展では画像を展示

2章 山田寅次郎を知る

好奇心だらけの青年期

【薬学】【潜水夫】【語学】【政治】【編集】と、興味のあることは、なんでもやってみる。

日本に帰国後、実業家として

タバコの巻紙・ライスペーパーを日本で生産し、大ヒットとなる!

「由来日本人の欧米に遊ぶ者は、先進国の文化文明につき研鑽を怠らざるもの多し、氏も亦そのひとりにて土耳其にありて何を学ぶべきかを考へられたる末、世界に知られし土耳其煙草の製造を日本に於いて始めんと思ひ、其研究に入念せられし」 山田寅次郎

茶道家元

15歳で茶道宗徧流七世の養子になりながら、自由きままに生きてきた寅次郎が、

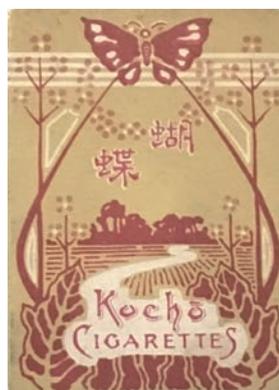
57歳にして八世家元を襲名、今までの経験を生かして流儀を盛り上げる。

トルコとの交流

大阪の自宅をトルコ風に改装し、「土耳其ハウス」と呼ばれ、トルコから日本に來日した人の世話や、日土貿易協会を設立、帰国後もトルコとの関係を続けていた。寅次郎の書齋を再現し、当時の雰囲気を楽しむ。



オスマン時代の宮廷にいた人々の絵 *1



タバコ試作品 *2



東京百事便(1890年) *3

*1
オスマン時代の宮廷にいた人々の絵

寅次郎の部屋のドア裏側にある絵。表は朱色の更紗が貼られている。展示会場にこのドアを展示する。

*2
タバコ試作品

日本に帰国後、タバコの巻紙(ライスペーパー)の生産に力を入れた。莫大な時間と費用がかかったため周囲から諦めた方が良いと言われたが、絶対成功するという強い信念で完成させた。

*3
東京百事便(1890年)主宰する三三交房から出版したタウンページ。

東京の各官庁、銀行、企業、学校などありとあらゆる職種との連絡先と特色が掲載されている。当時かなりのヒット商品となった。

*4
大阪・内淡路町の寅次郎自宅居間

室内には、オスマン帝国から持ち帰った調度品、周辺諸国から集めたものが所狭しと飾ってある。写真2列目左から 稲畑勝太郎(日土貿易協会会長)、山田寅次郎夫人、トルコ共和国初代代理大使ファットベイ、寅次郎



オイルランプ



彫刻象



大阪・内淡路町の寅次郎自宅居間 *4

3章 新月・山田寅次郎と 紅雲・伊東忠太の交友

建築家・伊東忠太がトルコ滞在中(1904)になにかとお世話をした寅次郎との交友関係を知る。二人の葉書を読むとプライベートから建築内容まで幅広い。忠太の公私にわたる日記帳「野帳」9巻「土耳其」と10巻「土耳其、埃及」に記録されている通信記録によると、夫人に出すよりも寅次郎へ送った書簡の方が多かった。二人の葉書は、Instagramのような気軽さで当時の様子を伝えあっている。「野帳」と忠太、寅次郎の葉書を展示、さらに二人の言葉を音声で聴く。



建築家・建築史家。
1902年から3年間建築学
研究のため、中国、インド、
トルコに留学。

伊東忠太
いとうちゆうた
(1867-1954)

二人の言葉を音声で聴く

山田寅次郎宛 葉書 伊東忠太
1.1905年(明治38年)1月23日



2.1904年(明治37年)11月15日



3.1906年(明治39年)
11月12日



4.1904年(明治37年)10月10日



山田寅次郎宛 葉書
伊東忠太

- ふたりは一緒にオスマン帝国を出発し新月・寅次郎は日本へ帰国、紅雲・忠太は、欧州に向かうことに。忠太は、漢詩とともに新月に腰掛け、紅に棚引く雲に立つ女性寓意像を自分たちに喩えた。
- シリアより
愛児の誕生日に祝盃をあげつつ、馬市場の景をご覧に入れます。葉書が到着したらビールがワインで祝ってくださいと願っていますと、伝えている。
- 東京・西方町より
帰国後も時々絵と共に駄洒落を書いたハガキを送ってきている。
- カイロより
進捗状況の知らせ。忠太が調査旅行中、寅次郎はイスタンブールからいろいろ便宜を図っていた。

忠太に影響を与えた オスマン文化と建築



伊東忠太撮影
乾板写真 1.



2.



3.

伊東忠太の
世界旅行

伊東忠太撮影
乾板写真

- スルタン アフメド
モスク
- シュレイマニエ
モスク 内
- コンヤ